

## 学習院大学所蔵漢籍から見る 京都の学習院の教育

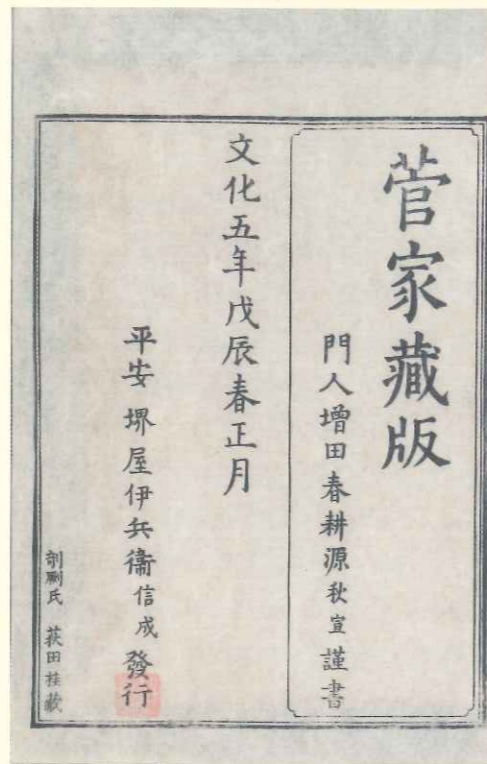
幕末京都の学習院では、弘化4年(1847)の開設の当初から、「御会」と呼ばれる講義が行われていた。御会の会日は毎月9の日、すなわち9日、19日、29日であり、当日は辰刻(午前8時頃)より巳半刻(11時頃)までが講釈、午半刻(午後1時頃)より申刻(4時頃)までが読書に充てられた。講釈とは、講師による講義のことで、平素は経書(儒教の經典である四書五経)のうち1冊が選ばれ講じられた。また読書とは素読、輪読指導のことで、読師(講師と同じ人物が務めた)の他に、院内の庶務にかかわる雑掌が補佐した。なお嘉永2年(1849)より国書の講義、すなわち「和御会」が開講されるにあたり、漢籍の講義である御会は、それと区別して、「漢御会」と称されるようになった。

それではこの「御会」(漢御会)では、具体的にどのような書物が用いられたのであろうか。いま学習院大学図書館には、実際の講義でも用いられたと思しき京都の学習院の旧蔵書が1,500冊以上収められている。そもそも京都の学習院は、古代の大学寮の再興を意図して建てられたといわれるように、その旧蔵書にも、古来学問の家として名高く、かつて大学寮の教官(博士)をつとめた菅原氏、清原氏にかかわるものが含まれている。ここではそのいくつかを紹介してみよう。

### 五条為徳校『御注孝経』

弘化3年(1846)10月、五条為定により奉納された『御注孝経』30部のうち、いま学習院大学図書館は27部27冊(114/11~37)を収める。内題下部に「参議従二位行右大弁兼長門権守菅原朝臣為徳校」、刊記に「菅家藏版……文化五年戊辰春正月/平安塚屋伊兵衛信成發行」云々とあることから、五条家(本姓は菅原氏)の家藏本を、文化5年(1808)五条為徳が校勘し刊行したものと分かる。なお五条為定は、為徳の実子である為貴の養子にあたる。

弘化4年3月9日、学習院の開講日には、東坊城聡長による『御注孝経』の講釈が行われた。そもそも聡長は、五条為徳の三男に生まれ、のち東坊城家の養子となった人物であるから、おそらく聡長が講釈に用いたのも該書であったと推測できる。為徳の功績、さらにいえば五条家(菅原氏)の家学を明らかにするという意図のもと、為定は該書30部を学習院に奉納し、聡長はそれを講釈したのであろう。



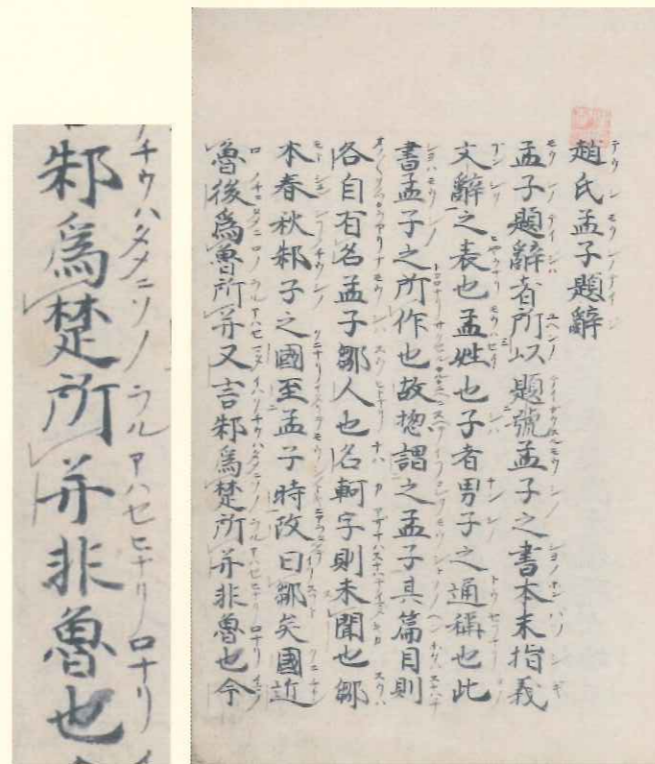
『御注孝経』(学習院大学図書館蔵)

### 『古文孝経』・『孟子』

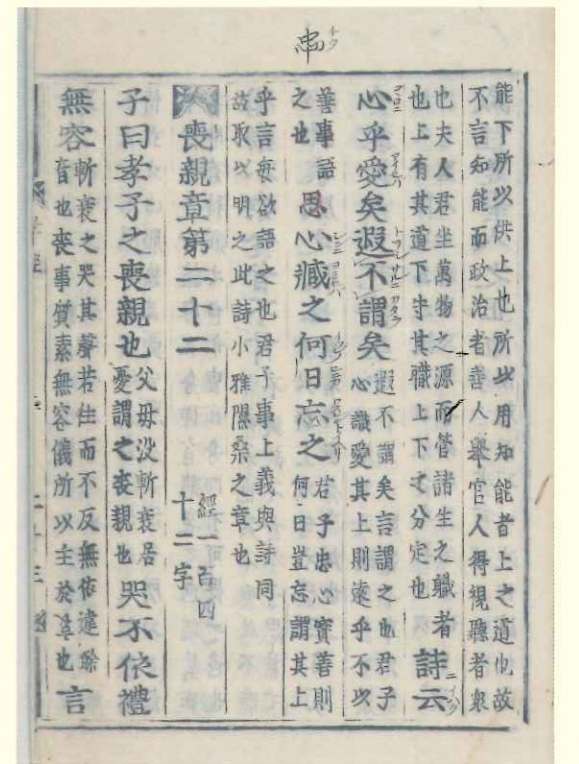
明確な刊記、奥書等の情報は無いが、そこに書き込まれた内容などから、両書ともに、清原氏と何らかの関わりがあると考えられるものである。

まず『古文孝経』(114/49)は、経文のほとんどの箇所、逐一返り点と送り仮名、振り仮名等の書き込みのあることが注視されるが、最終章である「喪親章第二十二」のみ、一切の書き込みがない。清原氏中興の祖宣賢(1475~1550)は、その著『孝経抄』において、「此章(喪親章)ハ凶会タルニ依テ、古来、文字読ヲモセズ又講説モセズ」云々と、親への服喪という凶事については取りあわないという立場を貫くが、これは該書の態度と軌を一にするとと言えるであろう。

また『孟子』(112/87)は、刊本であるが、巻頭に「趙氏孟子題辞」が補写されており、そこに見える一句「邾為楚所并非魯也」が注目される。その「非魯也」は、「魯ニ非ザルナリ」と読むのが常であるが、該書はここに「ヒナリロナリ」とある。これは相当珍妙な読み方であると言わざるを得ないが、宣賢自筆の『孟子抄』に「非也ト読ベシ」などとあるように、これこそ宣賢の訓読であった。さらに「清原」の白文方印(右頁中央の写真の右上部)が捺されていることは、かつて該書が清原氏の蔵書であったことの傍証となる。



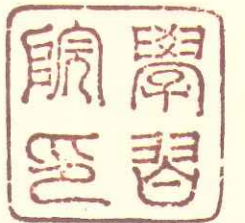
『孟子』(学習院大学図書館蔵)



『古文孝経』(学習院大学図書館蔵)

### 蔵書印「学習院印」

京都の学習院の蔵書印。京都の学習院の旧蔵書は七千余冊が現存し、学習院大学図書館のほか、京都府立総合資料館、国立公文書館(内閣文庫)、宮内庁書陵部などに収められるが、そのいずれにも右の蔵書印が捺されている。



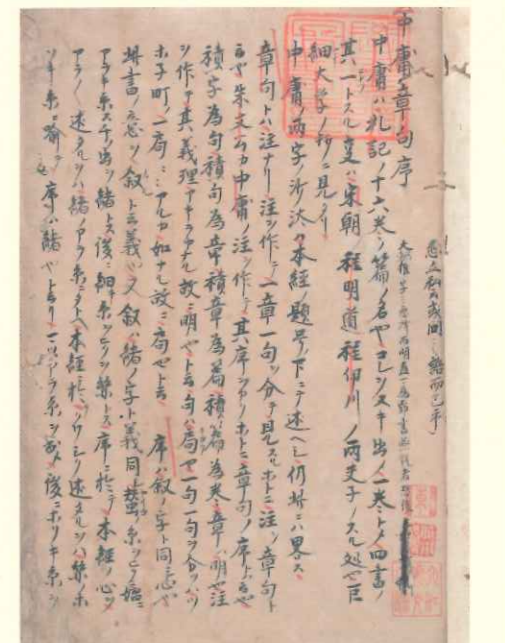
(客員研究員 中嶋諒)

\*ウェブサイト「学習院大学デジタルライブラリー」では、以上で挙げた漢籍3点を含め、学習院大学図書館所蔵の京都の学習院の旧蔵書が画像公開されています。 <http://glim-els.glim.gakushuin.ac.jp/>

### 〔コラム〕慶長十九年写『中庸鈔』ほか

学習院大学図書館には、京都の学習院の旧蔵書ではないが、他に清原氏資料を二点所蔵している。これらは慶長19年(1614)写『中庸鈔』1冊(112/53)と、江戸前期写『大学抄』1冊(112/43)である。これらはかつて阿部隆一氏「本邦中世に於ける大学中庸の講誦伝流について—学庸の古鈔本並に邦人撰述注釈書より見たる」(『斯道文庫論集』第1輯、1962年3月、所収)によって紹介され、とりわけ前者は、この書の撰者が清原宣賢であることを確定する奥書を有することが特筆されている。いずれも清原氏の家学をいまに伝える貴重な資料である。

(中嶋諒)



『中庸鈔』(学習院大学図書館蔵)